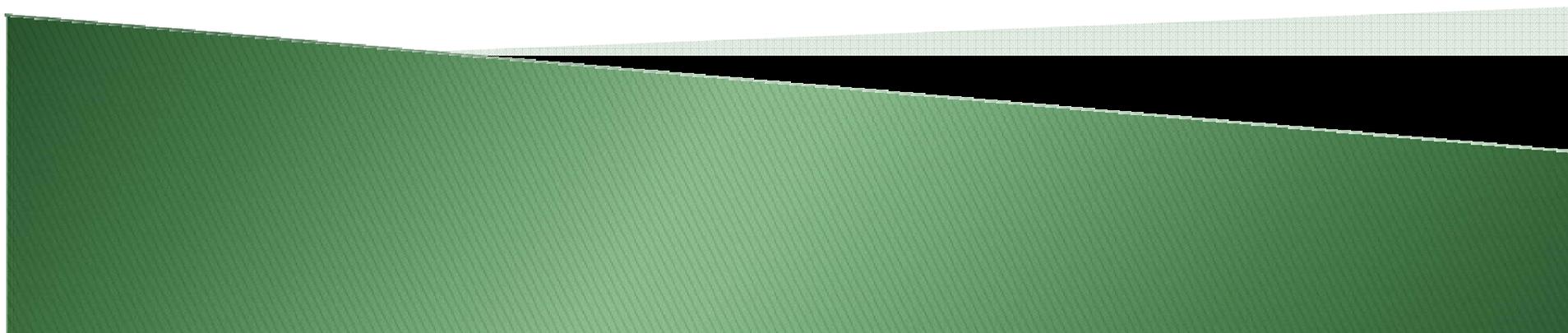


# 第7回大会の概要と審査システム

2009年2月15日

運営委員会

森下哲朗



# 1. コンペティションの目的

- ・社会における交渉・仲裁の重要性と、その更なる高まり
- ・国際化と諸外国における交渉・仲裁についての実践的教育

交渉・仲裁等について優れた能力を有する人材の育成の必要性

学習のインセンティブの提供、教室の授業では得ることのできない「何か」を得る機会

## 2. 第7回大会の概要

### 第7回大会

- (1) 日時 平成20年12月6日(土)、7日(日)
- (2) 会場 上智大学
- (3) 後援 住友グループ広報委員会、ホワイト&ケース法律事務所、社団法人日本仲裁人協会、上智大学
- (4) 参加校 16校より260名が参加

### 3. 第7回大会のプログラム

< 12月6日 >

- 12:00 開会式
- 13:00 ラウンドA(仲裁)
- 17:00 ラウンドA終了
- 18:00 懇親会

< 12月7日 >

- 9:30 ラウンドB(交渉)
- 13:30 昼食・ティータイム
- 15:00 ゲスト・スピーチ  
藪中三十二氏(外務省事務次官)
- 15:45 閉会式

## 4. 参加者の推移

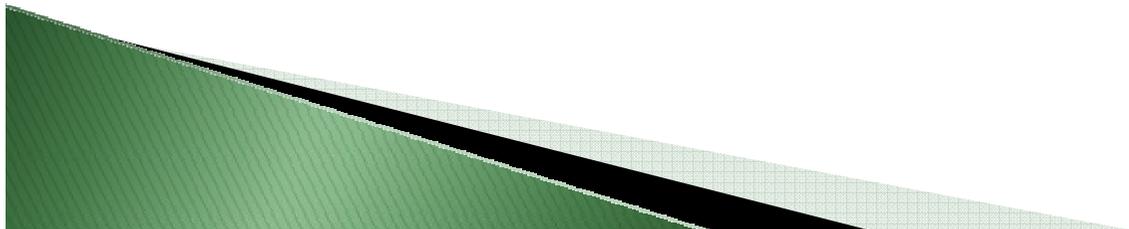
	大学	日本語	英語	参加者
1	4	4	4	74
2	8	14	8	129
3	12	20	12	173
4	14	24	14	205
5	15	24	16	209
6	16	30	18	250
7	16	30	20	260

\* 第5回大会よりオーストラリアが参加。

第5回は2大学、第6回は3大学、第7回は1大学で1チーム。

## 5. 第7回大会の様

住友グループ広報委員会が製作してくださっている記念DVDの一部より。



## 6. アンケート結果

「本コンペティションに参加してよかったですか？」

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1. とてもよかった      | 173名(76%) |
| 2. よかった         | 43名(19%)  |
| 3. まあまあ         | 6名(3%)    |
| 4. あまりよくなかった    | 2名(1%)    |
| 5. 参加しないほうがよかった | 2名(1%)    |

## 6. アンケート結果

### ▶ 問題・規則に関するご意見

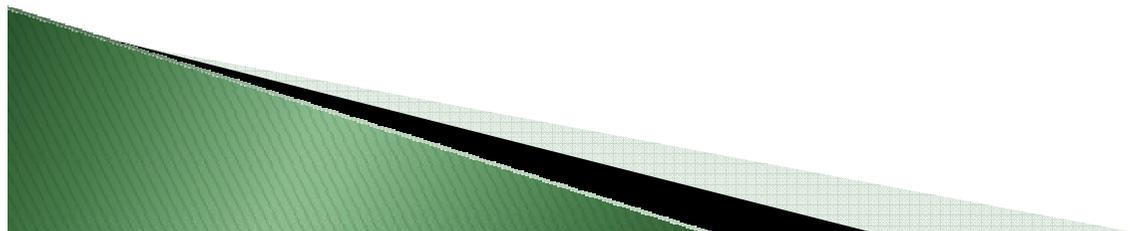
- 問題の改訂: 多い、直前まで行われて困る
- 質問への回答: 少ない、回答しない理由が欲しい

(仲裁)

- レッドが不利?
- 論点が多い
- 準備書面を複数回交換

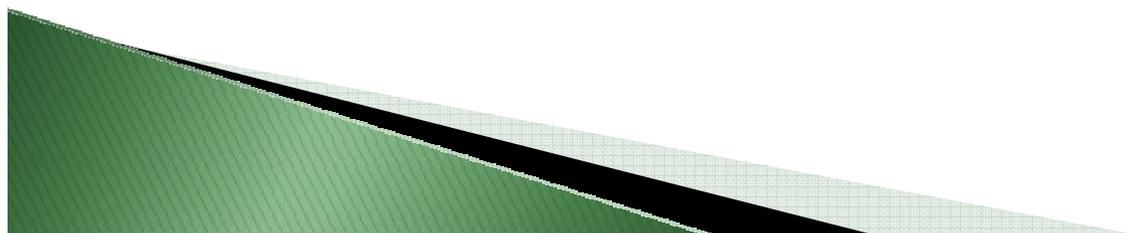
(交渉)

- 漠然としていた
- 交渉前の社長との面談の復活



## 6. アンケート結果

- ・審査に関するご意見
  - 仲裁の進め方を統一してほしい
  - 審査員によって評価が違う
  - 審査結果を公表してほしい
  - 講評では良かった点と悪かった点を双方言ってほしい



# 7. 審査システム

< 審査員団 > 1対戦を3名で審査。仲裁では仲裁人を兼ねる。3名のうち1名はOB・OGも。

(カッコ内は昨年)

・企業等	21名(18名)
・裁判官	7名(5名)
・弁護士(外国法弁護士を含む)	20名(26名)
・大学教員	18名(22名)
・OB・OG・若手	29名(21名)
合計	95名(92名)

# 7. 審査システム

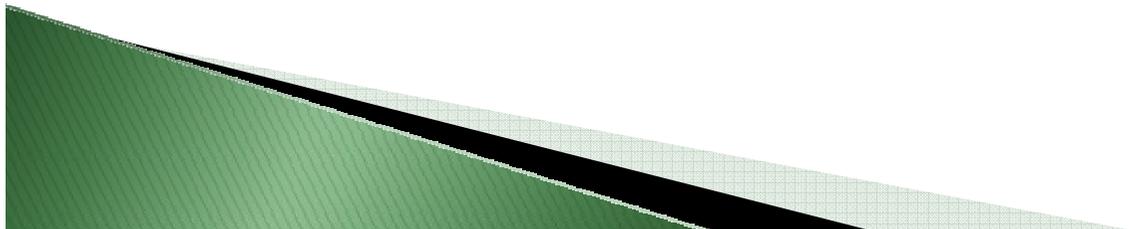
## ・審査プロセス

3名の審査員が独立して審査

\* 著しく高い点、著しく得点差が開いている場合には、  
運営委員に報告(ほとんどなし)

3名の合計点が各チームの得点

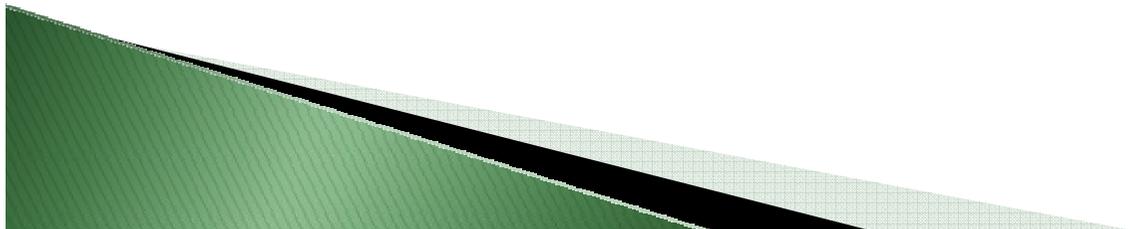
参加チームの平均得点が大学の得点



# 7. 審査システム

< より良い審査システムのために >

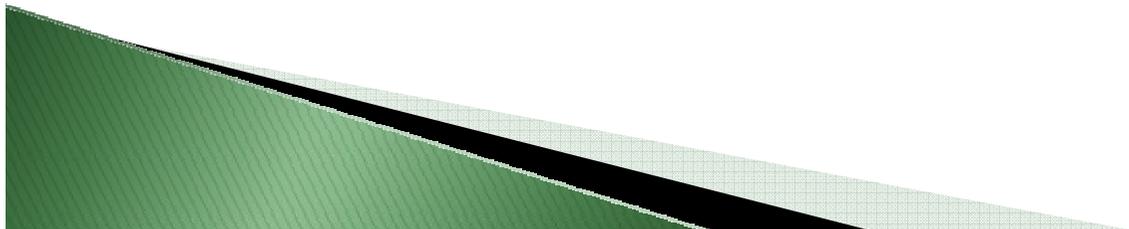
- ▶ 事前打合せ(2回)
- ▶ 審査員ハンドブック
- ▶ ラウンドA、ラウンドBのポイント
- ▶ 当日の打合せ
- ▶ 同一審査員は同一チームを複数回担当しない
- ▶ 審査員のペア(経験者、職業等)
- ▶ 対戦相手(できるだけ異なる大学と対戦)
- ▶ OB/OG審査員



## 8. 審査を考える

何が良い仲裁、交渉であるかについての考え方は人によって異なる。  
また、裁判官、仲裁人、相手方、場面によって様々であるのが現実。

- ・審査員による違いは現実の世界でも存在
- ・色々な考え方、進め方に触れることも勉強
- ・講評は謙虚に受け止めつつも、それに一喜一憂せず、それを主体的に消化してほしい。



## 8. 審査を考える

<とはいえ>

- ・ 多くの審査員(最低でも1チーム6名)の目に触れ、その平均として出てくる得点は、相当程度客観的なもの
- ・ とても良い、とても悪いは、誰が見ても同じ
- ・ 講評と審査内容は同一ではない

大会終了後、講評内容を参考に、指導教員とともに、自分たち自身のパフォーマンスを振り返ることが大切。

